

協働による授業づくり全体計画

- 「児童の姿」に基づいてPDCAサイクルが機能する研究組織と研究計画をつくる。
- 「成果と課題のリレー」が行われる授業研究にする。
- 教材研究や授業構想の立案の段階から学年部を中心に協働する体制をつくる。
- 不定期に機会を捉えて提案や相談、情報交換等を気軽に行う雰囲気づくりに努める。
- 研究授業を通して得られた成果と課題を共有する場を定期的に設定する。

1 研究計画の作成	研究主任 研究推進委員会 研究全体会	学校の実態や前年度の研究に係る評価に基づいて研究主題を設定し、全職員で共有するとともに、以下の事項について計画を提示・協議する。 研究内容、検証の方法、研究の視点、研究組織、研究推進の計画、研究全体構想図等
2 構想立案	学年部会 研究主任	研究計画に基づき、児童の実態、年間指導計画等を考慮し、単元や単元指導計画、授業構想等について話し合う。
3 指導案作成	授業者 学年部会	研究主任等を含めた学年部会で相談しながら授業者が作成する。
4 模擬授業 事前検討会	研究全体会 全職員	第一次案に基づいて全職員を対象に模擬授業を行い、視点に迫る手だてや指導過程等について協議する。
5 指導案修正	授業者 学年部会	4の協議内容に基づいて、学年部で検討し、修正する。
6 研究授業 (検証授業)	研究全体会 全職員	全職員が参加し、研究授業を行う。授業の準備や記録等は学年部と授業研究部で分担する。
7 事後検討会	研究全体会 全職員	ワークショップ形式で視点に基づいた話し合いを行い、成果と課題を明らかにする。
8 成果と課題の 共有（職員会議）	研究全体会 (職員会議)	7の内容を整理し、成果と課題を明確にし、次回の研究授業に引き継いでいく事項を共有する。
9 評価・考察 次年度計画の立案	研究推進委員会 研究主任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究推進に関する評価と反省に基づいて研究全体会での協議事項原案を作成する。 ・ 次年度の研究計画原案を作成する。
10 研究の評価 次年度計画の決定	研究全体会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度の研究の方向性を協議する。